

時代が求めた  
新・納骨供養壇  
公開致します

## 常楽塔の解説書

小型分骨式納骨壇

常楽塔

Jourakutou

### 新しいタイプの納骨壇、登場。

新規納骨堂をご計画されているなら、  
選択肢から外せない理由があります。  
今、墓地や納骨壇を運営されていても、  
この納骨供養壇は、  
併設するだけの意味があります。



大規模な納骨堂建立の必要はなく、  
院内の空きスペースから始めて、  
面積に合わせ、順次拡大も可能。  
すぐに納骨壇運営を開始できます。

この納骨供養壇は、高さわずか25cmですが、  
これからの納骨供養を変革する  
大きな潮流となっていきます。

ご寺院様とともに20年



# 時代に適応、革新的な運用法の納骨供養壇が登場。

## 革新的な 存在とは

ご寺院様において、現在ご遺骨を納骨し供養される場は、もちろん墓地、そして納骨壇ではないでしょうか。

以前は墓地が中心だったのですが、次第に墓地の空きが少なくなり、簡単には拡充できないことから、墓地の代わりに生まれたのが、納骨壇ということになりました。

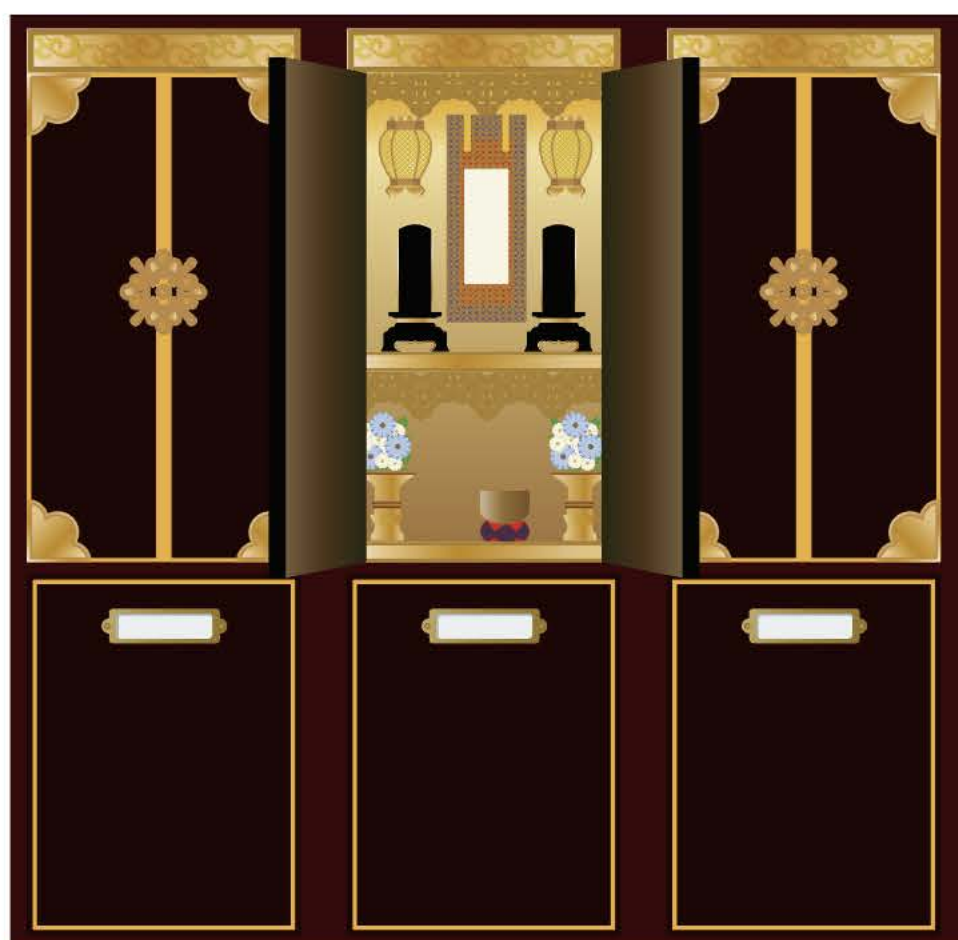
納骨壇も登場以来、長く歴史を重ねて参りましたが、その種類は、仏壇型、ロッカー型、自動搬送型の3種類に大きく別れ、細かい仕様の違いはあっても、それ以外の納骨壇は登場しておりません。

**そうした中、これまでにないタイプの納骨壇が生まれました。**

それは、これまでの納骨壇と大きく異なり、家単位ではなく、個人単位の一人1基の納骨壇です。そのために小型化、高さ25cm、下部横幅・奥行き10cmという分骨式の納骨壇となりました。今、多くの人に求められる納骨供養の方向を十分に考慮して、その運用システムも構築されております。30～50年のご寺院様による永代供養を付加してご運用頂ければ、ご遺族・ご本人様の不安も解消され、心底ご納得を頂けます。

この効果的なシステムとともに、この納骨供養壇にご注目ください。

その詳細を本書でご案内しておりますので、是非ご確認ください。

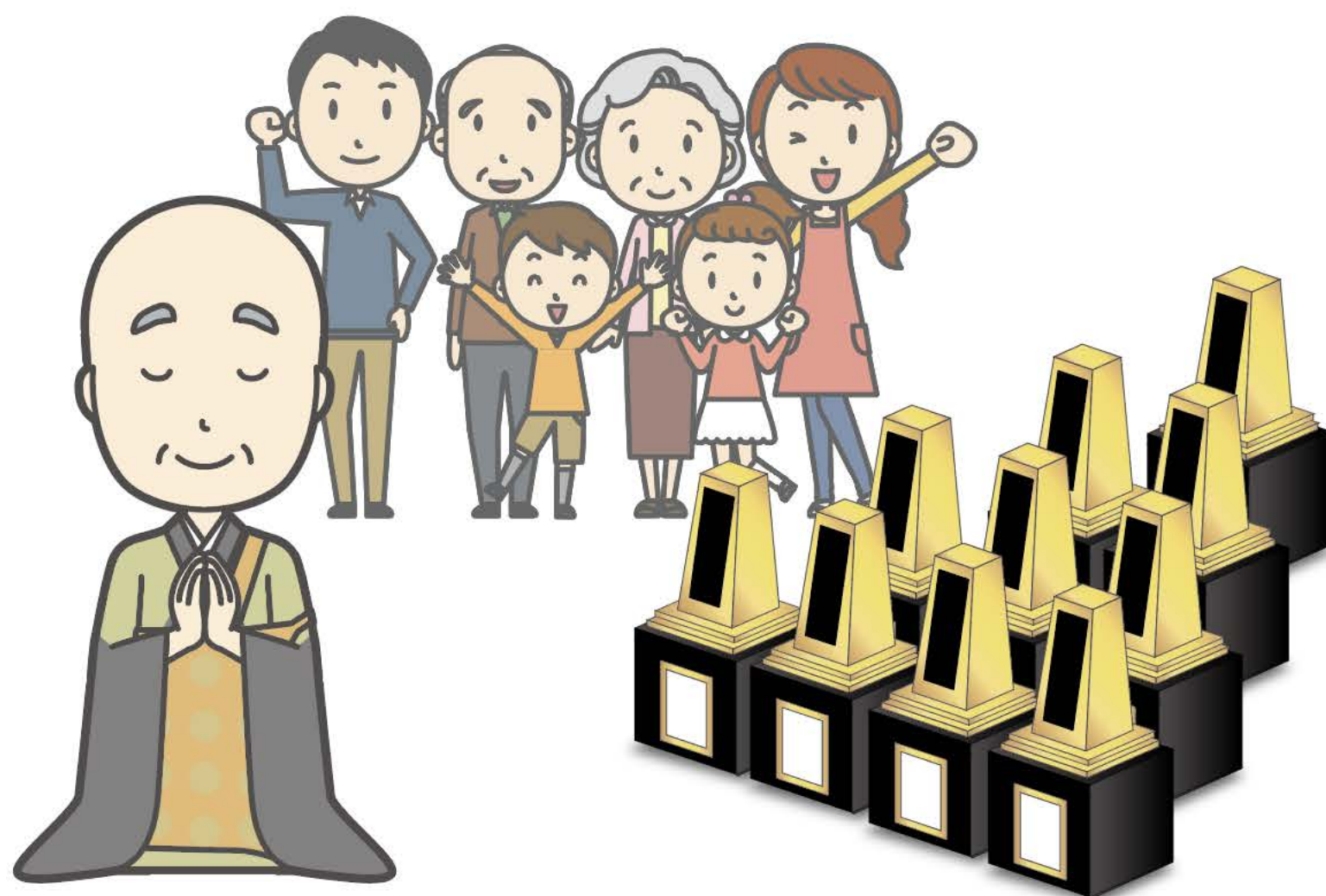


# 納骨壇設置場所の確保も簡潔、すぐに運営できます。

## 多死社会 の納骨は

ご寺院様の納骨施設運営には、これまで多くのリスクを要してきました。まず境内に墓地や納骨堂のためのスペース確保が必要であり、墓地にはさらに整地、納骨壇であれば納骨堂の建立という、多額の費用を要する準備が必要となって、これがこれまで、簡単に納骨供養の場を拡充できない大きな要因となっていました。

我が国では現在、年間140万人を超える多死社会を迎えています。多死社会とは、毎年、奈良県や山口県の全県民が死亡していく数字です。本来、故人の納骨供養はご寺院様にお願いすることであり、昔は誰でもそのように考えていました。しかしながら、現在では多くの方々が納骨供養ができず、公営墓地や民間墓地などの実質的に寺院以外の施設や、樹木葬や散骨、手元供養などの、かつては無かった供養の方法に流出しています。この冊子では、この状況を改善するために**導入しにくかった納骨壇の運営を、極力リスクなく始められる納骨供養壇として、ご案内させていただきます。**



# ご寺院様のお納骨や供養の選択肢が広がりました。



墓地

## 1 墓地

供養継承者がいる限り供養



終了

継承者不在になり納骨の終了  
(墓じまい、改葬、無縁墓地、檀家終了)



一般納骨壇

## 2 納骨壇

供養継承者がいる限り供養



終了

継承者不在になり納骨の終了  
(墓じまい、改葬、無縁墓地、檀家終了)



常楽塔

新たな  
選択肢

寺院の永代供養壇となれば墓地や既存の納骨壇との共有可能

## 3 新納骨壇 常楽塔

通常の納骨壇として利用



終了+継続

継承者不在になり納骨の終了  
(墓じまい、改葬、無縁墓地、檀家終了)

続いて

継承者が不在になった時、  
寺院が永代供養する体制が取れる

# 何故この常楽塔が分骨式で、一人1基なのか？

## 一人1基 その訳は

今に至るまで納骨供養は、墓地にしても納骨壇にしても「家」を中心として継承者が引き継いできました。ところが近年では、核家族化や少子化によって「家」として継承することが次第に困難になり、供養が途絶えてしまうことも多くなってきました。近年墓じまいや改葬、無縁化が進んできたのは、それが理由かもしれません。

こうした納骨供養の断絶を回避するために、「常楽塔」というご寺院様で納骨供養の継承をして頂くことができる、永代納骨供養壇が生まれました。これは一人1基の供養で、供養の対象を「家」から「個人」にするため、分骨式で小型化、個々の供養をより厚くできるようにしました。我が国では単独世帯が今や2,115万世帯と、全世帯の38%と最も多い時代になりましたが、たとえ供養の継承者が不在であっても、供養の断絶も、無縁化も防げる安心の納骨供養の体制となります。



お檀家様やご利用者に  
供養への安心感を与え、  
まさに一人々々を供養  
するための納骨壇です。

30～50年 寺院で永代供養  
その後、院内か本山で合祀

# 数基から院内のスペースで、リスクなく導入開始を。

## 常楽塔のメリット①

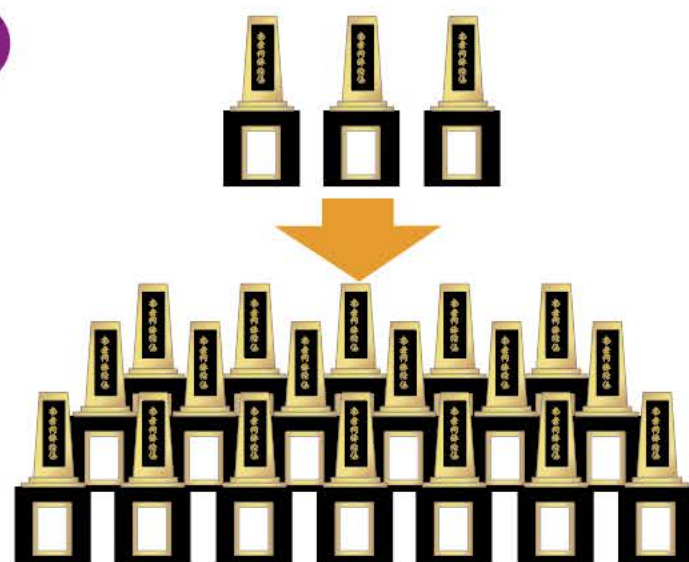
この納骨壇は、納骨堂を建立しなくとも、貴院内に小さなスペースがあれば、10基程度からでも納骨供養を始められます。また畳1枚の広さがあれば、およそ100基の常楽塔を安置できます。



# 申込みの状況を見て、徐々に増やすことが可能に。

## 常楽塔のメリット②

当初より100基、200基の常楽塔を安置することなく、少ない基数でお始め頂き、その後のお申し込みの状況をご判断頂いてから、徐々に常楽塔を増やしていくことも可能です。



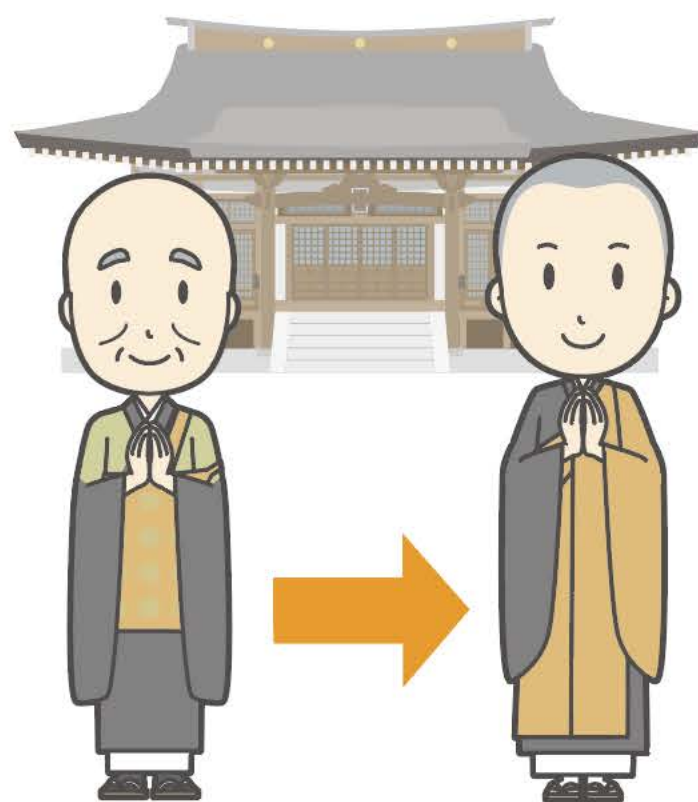
# 抜群の投資対効果、寺院運営を次世代へ繋げる。

## 常楽塔のメリット③

常楽塔の永代供養料と永代供養期間は、ご寺院様でお決め頂きます。分骨式の納骨供養壇ですから、安置面積に対して効率よく、多くの常楽塔を安置できます。

常楽塔は1基約30,000円で導入、冥加金は平均1基300,000～500,000円で設定され、年間30基程度のお申し込みを受けられているのが、実例としてあります。

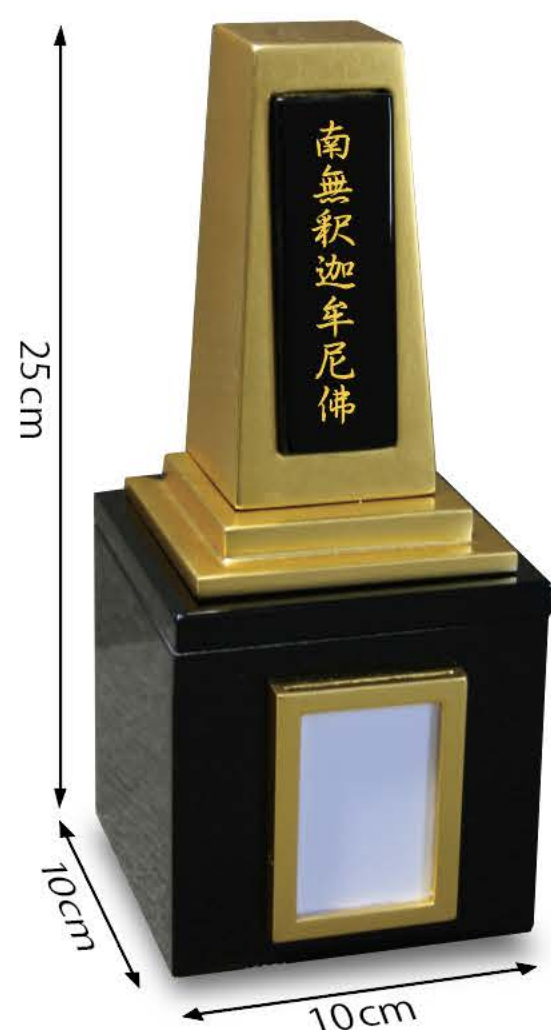
お約束の納骨供養期間が終われば、順次常楽塔をローテーションして、新たに常楽塔供養を実施、次世代の寺院運営に繋げて頂けます。



本体は木製で、仕上げを本漆塗りとカシュー塗りからお選びいただけます。上部の礼拝部は、純金箔張りとなっております。また、付属しております黒い札板には、南無釈迦牟尼仏などの御本尊様や戒名、法名などを記していただけます。木製ですが、納骨堂運営許可が認可された納骨壇です。

**実物大**

実物大ですが撮影角度のため誤差があります。



# 常楽塔なら、このような場面でも供養を続けられる。

## この状況でも供養

残念ながら現在では、下図のような状況においては、納骨供養を諦めなければなりませんでした。常楽塔は、通常の納骨壇として活用できますが、ご寺院様のご方針によって、供養を断絶させないで、引き続きご寺院様による永代供養の継承ができるように企画されています。

もちろん、最初から永代納骨供養壇として運営することもできます。これは、通常の納骨壇と比較して、非常に効果的な差別化となります。そうならば、下図のような納骨供養ができない場面でも納骨供養されることが可能になり、さらに単身者や、将来の納骨供養継承が不安な人にとって、生前予約をご寺院様にお願いしておくことができます。こうして常楽塔による永代納骨供養を実現すれば、他の納骨壇にはない「**供養が途切れずに続けられる**」という、大きな特長となります。

実家のお墓を守れない。  
墓じまいか、改葬しかない。



### 家族も減って、墓地を継げない。

子供が減り、離れて暮らしている。実家の墓地が絶えてしまう。供養ができない状況だが、常楽塔で続けられることに。

両親の供養ができないなんて、  
どうしたらいい？



### 子供は嫁いだ私だけ。実家は…

娘一人の家庭は多い。結婚して相手の家に入れば、実家の供養は困難である。それが可能な方法があるとは思わなかった。

一人残った私が死んだら、  
どうなるのかしら？



### 伴侶も亡くなり、自分の供養は…

伴侶に先立たれ、今ではひとり。私に万一のことがあれば、誰が供養するの？生前予約で、そんな心配も不要になった。

我々の墓の面倒を  
見てくれる者がいないなあ…



### お墓の後継者もなく、絶家になる。

私たちでお墓もお終い。「家」が絶えるのだ。ご先祖様に申し訳ない。でもお寺が継承してもらえる事になりうれしい。

どうせ独りだから、  
俺の供養は諦めるしかない。



### ずっと独身、自分の供養は…？

家族もなく、縁者も遠い。だから無縁仏になるという境遇だった。そんな自分でも供養されることになるとは安心だ。

私たちだって、  
親の供養はしたいけど、無理だろ？



### 家長だけでなく兄弟も供養したい。

昔から長男が供養の継承者。親を思う気持ちは兄弟一緒なのに…。分骨してみんなで供養ができる方法があったとは。

# 常楽塔という、小型分骨式納骨壇の流れについて。

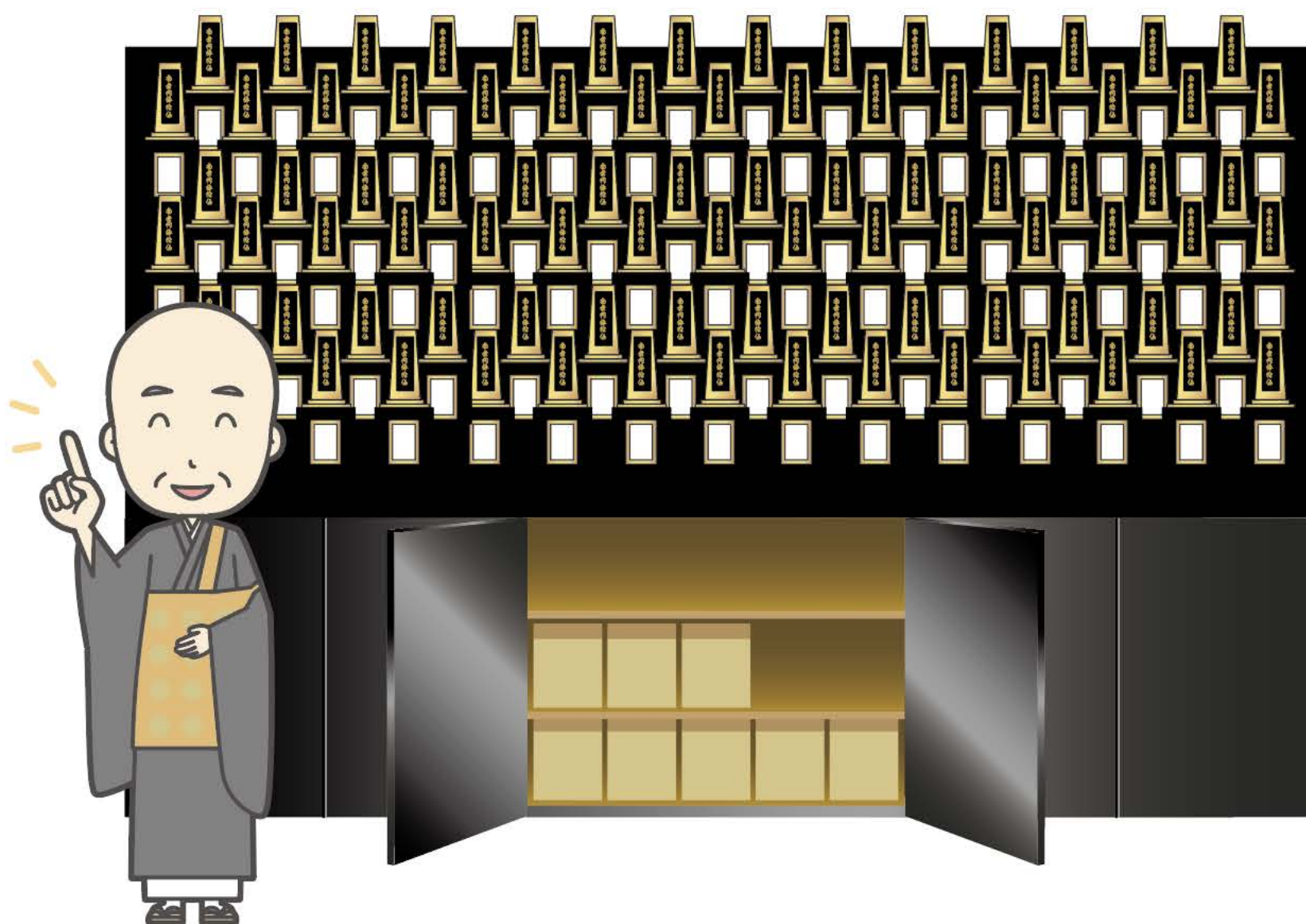
## 常楽塔の 永代供養

常楽塔は、一人1基の分骨式納骨壇です。これまでの「家」単位の供養から、「個人」を供養するようになった画期的な納骨壇です。ご遺骨を分骨し常楽塔に納骨します。常楽塔に納めきれないご遺骨は、例えば下図のように常楽塔安置壇（常楽壇）に収納スペースをお作り頂き納骨して頂くか、院内の別のスペースにお納骨して頂いております。

これで全骨の納骨となります。収骨の際に当初より分骨されている場合は、この限りではありません。

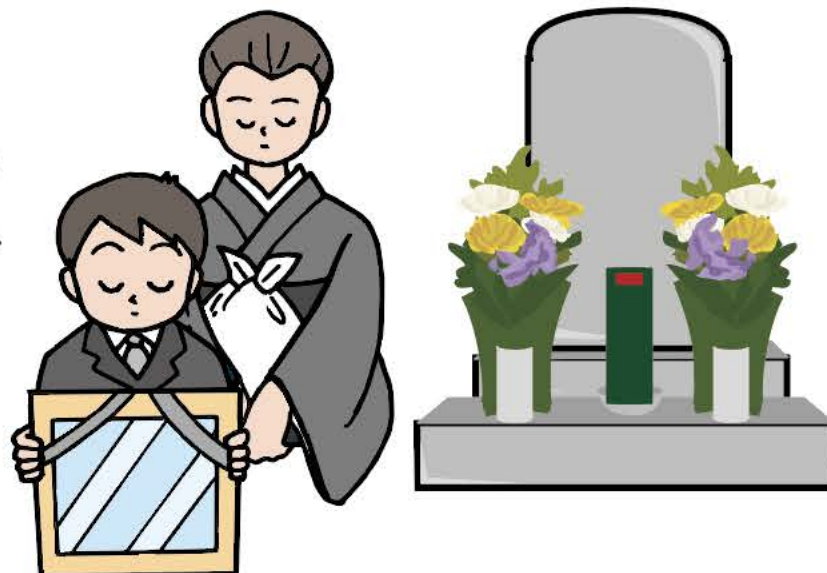
ご葬儀後のご遺骨や、ご自宅にご安置されていたご遺骨、墓じまいによるご遺骨などを常楽塔へ分骨し、ご寺院様による納骨供養の継承によって、個別に永代供養が実現します。

常楽塔へのお彼岸やお盆などの法要は、各ご寺院様でお決め頂いております。

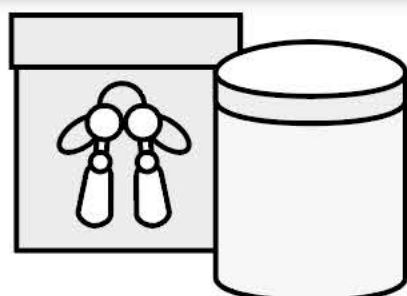


## ご葬儀／墓じまい

ご葬儀後のご遺骨、ご自宅にご安置のご遺骨、墓じまいによるご遺骨などを、常楽塔で納骨供養を致します。



## ご遺骨



## 常楽塔へ納骨

常楽塔に納骨します。  
入らないご遺骨がある場合、  
ご寺院の指定場所に納骨します。



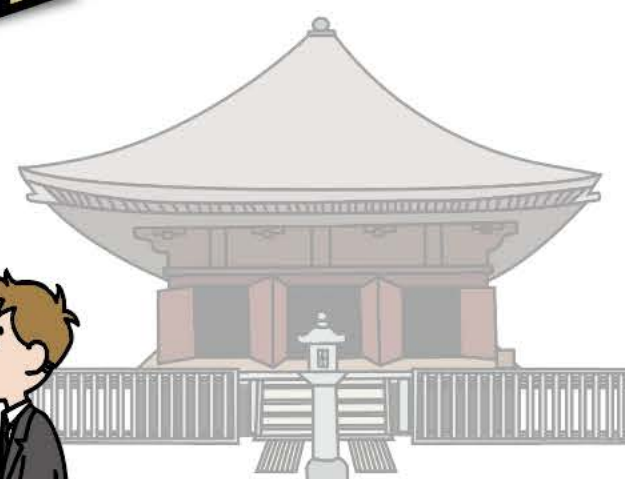
## 寺院で個別納骨供養

常楽塔は個別納骨供養壇なので  
お一人様1基の納骨供養です。  
移動も簡易なので、お身内の  
近くに安置することも可能です。



## 寺院で永代供養

たとえ供養の継承者が不在になっても、  
ご寺院で永代(寺院の供養期間に準じて)  
に供養されます。



## 永代供養終了後

永代供養の期間が終了しましたら、  
ご寺院の施設か本山に合祀、常楽塔供養が  
終了しても、供養はずっと続いていきます。



# 常楽塔への納骨は、こんな手順で実施されます。

## 納骨の方法は？

ご遺骨は、基本的にご寺院様へ直接ご家族や関係者、ご依頼を受けた方にお持ち頂きます。その際、ご契約の時に  
ご寺院様よりご案内された、埋葬許可証などの書類も  
一緒にご持参して頂きます。遠方の方やご事情があつて  
ご寺院様にお持ち頂けない方は、ご寺院様の了解をもって、  
郵送納骨という方法もあります。日本郵便の「ゆうパック」で送ることが  
できます。必要書類も同梱して頂きます。

ご遺骨がご寺院様に届きましたら、常楽塔にご遺骨を納めます。またご  
契約者ご自身が単身者で生前予約される場合は、万一の事を考え、その  
契約書が第三者の目に触れるところに保管（あるいは依頼）をして頂き  
ます。納骨前のご予約の場合でも、ご契約の時点で冥加金をお納め頂  
きます。永代納骨供養期間は納骨時点から始まります。



上部の礼拝部をずらす



桐箱（オプション）に  
ご遺骨を入れて封印



添え紙とともに納骨部へ



礼拝部を閉める

※上記の桐箱はオプションです。納骨袋など他の方法はお問い合わせください。

# ユニット式納骨壇と常楽塔の比較では、何が違う？

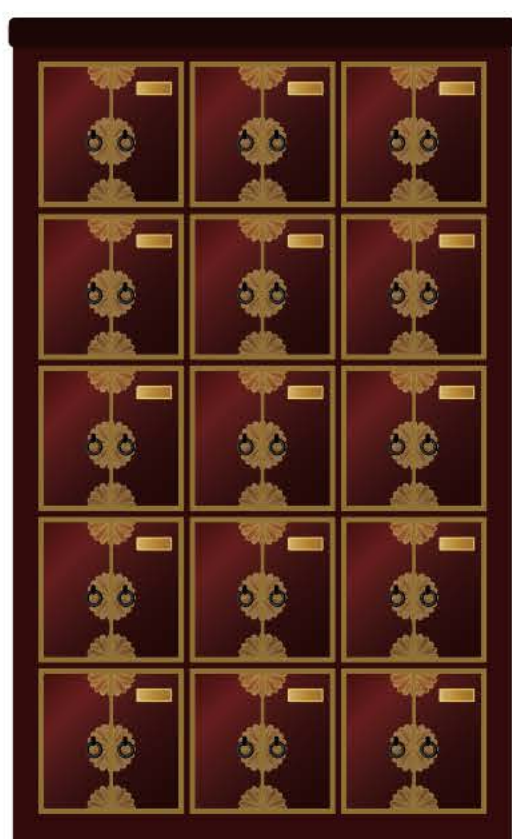
## 多段式と 相違点は

長きに渡りユニット式納骨壇が、最も普及し存続して参りましたが、時間の経緯とともに問題点も出てきました。それは、ユニット式の中の1家でも供養の継承ができず納骨供養を終えた場合、新たに入れ替えることが困難なのです。またロッカー式のような多段型では一番下の段は、避けられる傾向にあります。

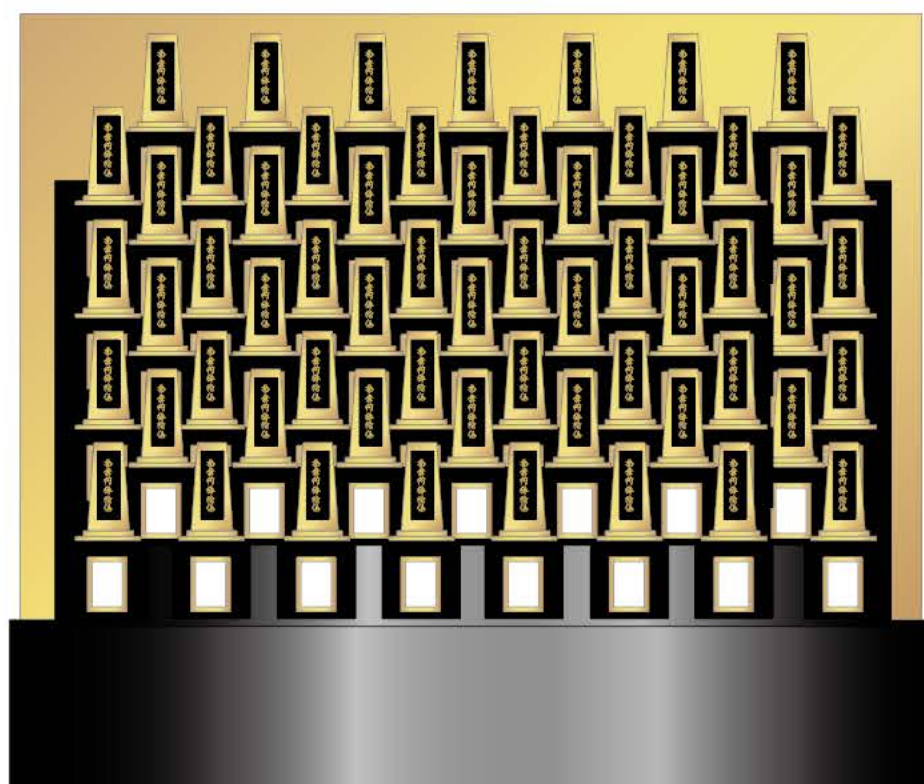
長い期間に納骨壇の一部にでも破損や劣化が生じれば、全て取り替える必要が出てきます。ユニットとして連結していますから、全てを解体して新たな納骨壇と入れ替えることになり、多額の経費が掛かってしまいます。

常楽塔は1基ごとに独立しています。供養期間が終わっても、その常楽塔を新しいものに入れ替えるだけで、新規に常楽塔で納骨供養が始められます。また、万一いずれかの常楽塔に破損や老朽化が生じても、その1基だけ交換すれば済むので、経費は抑えられます。

そして最も異なる点は、ユニット式は、どうしても事務的で冷たい印象となってしまうますが、常楽塔は純金箔張りのお仏具、整然と並んだ姿は、まさに荘厳と言えるものです。それは一目瞭然です。最終頁の写真をご覧ください。



VS



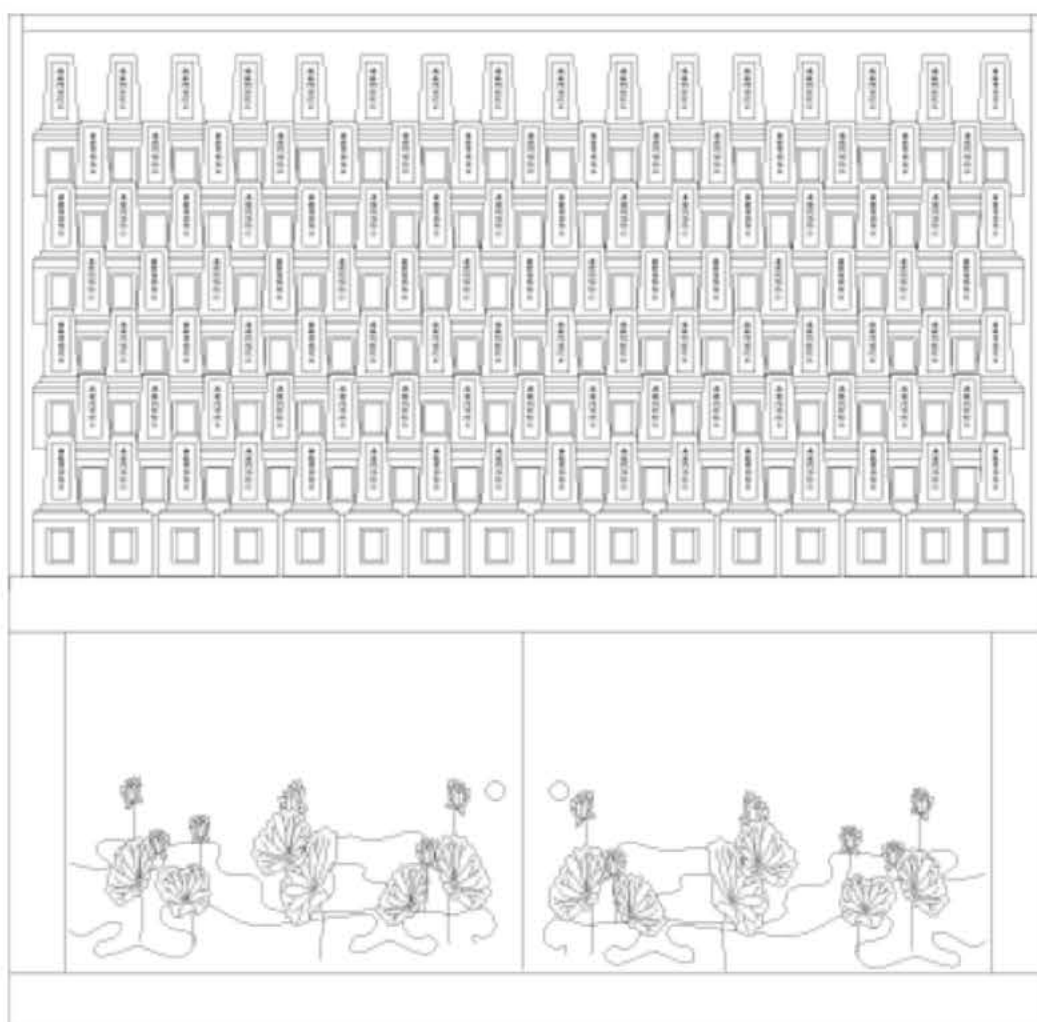
# 常楽塔の詳細な運営方法の手順をご案内します。

## 設置場所 基数検討

常楽塔は、現在主流となっていますユニット式納骨壇と同じく、本格的な納骨堂運営も可能です。また、政令指定都市に於ましても納骨堂運営許可が降りております。ご安心してご採用いただけます。常楽塔の設置、運営までの流れの一例を示します。

### ① 設置場所の決定 小スペースで本格的な納骨堂運営が可能です。

常楽塔は、小スペースでも本格的な納骨堂運営が開始できます。畳1枚のスペース（180 cm × 90 cm）があれば最大 109 基の設置が可能です。109 故人分です。家单位数で考えますと最大 50 軒分は確保できます。（算出根拠は、総務省の統計発表の1世帯あたり人口数2.14 人に基づく。）1軒3名としましても畳1枚のスペースで少なくとも36 軒の納骨スペースが確保できるのです。お檀家様の中には、既に墓地や納骨壇をお持ちの方もおられると思いますので、第一期の納骨堂運営としては、十分な基数かと思います。また、常楽塔は最初に最大基数を設置していただかなくても大丈夫です。例えば、109 基設置できる壇に30 基設置から運営を始めていただくという状況を見ながらの分割設置でも納骨供養の機能は発揮されます。また、今までのような納骨堂を建立するなどの必要がありませんので、将来の建物の維持経費を積み立てるなどのご心配も少なくなります。



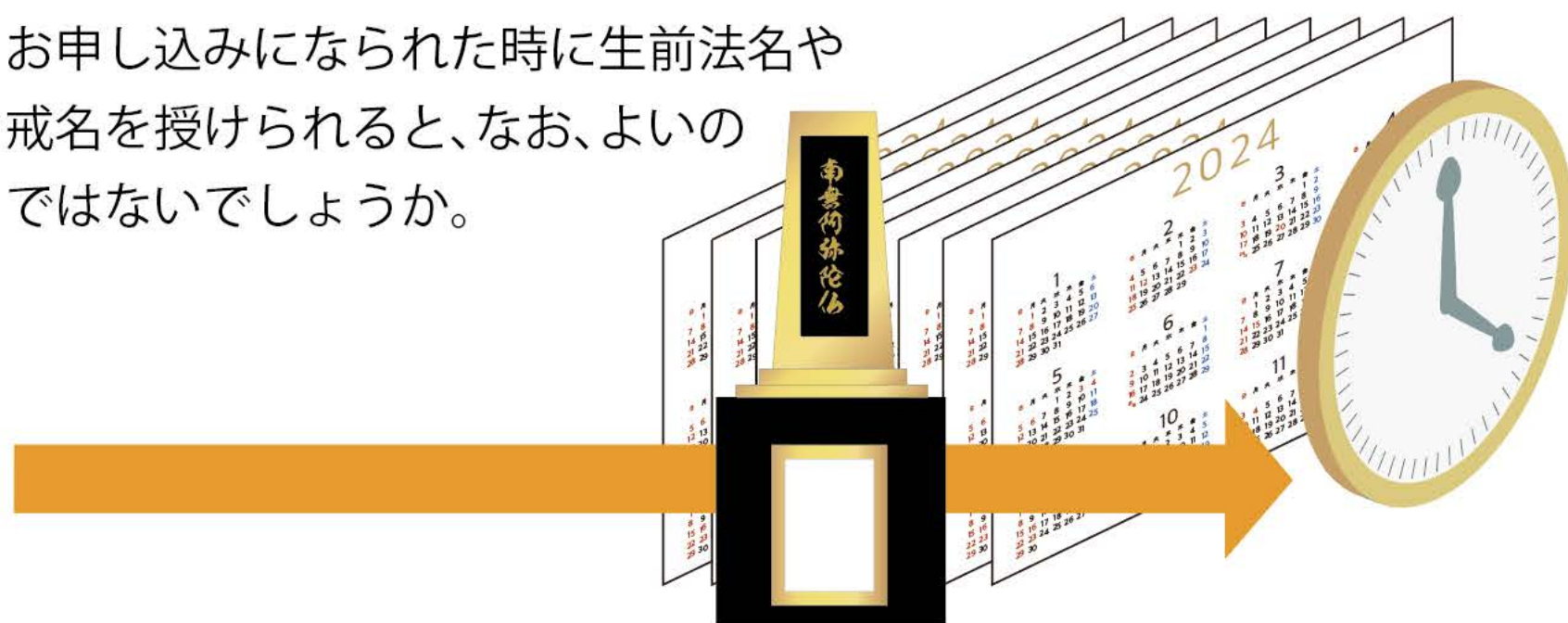
設置一例

# 常楽塔による納骨永代供養の期間を、ご寺院で設定。

## 納骨供養 期間設定

### ② 納骨供養期間をお決めください。

常楽塔は、安置期間を定めていただいております。これは、納骨されてから30年とか50年など、その故人の常楽塔の安置期間を定めるということです。約束された期間は常楽塔で、期限が過ぎれば院内の合祀墓で継続供養という考え方を基本としております。この期間については、様々な考え方があります。現在の墓地や納骨壇は、継承者が居なくなれば、閉鎖でき次の希望者に使用していただけます。極論ですが、この継承者不在は、墓地や納骨壇の使用後1年かも30年かも知れません。未知数です。しかし、常楽塔は絶家になり継承者が不在であってお約束の期間はご安置いただくことになります。常楽塔の回転率は、定められた期間満了後に初めて回転するということになります。期間を定めていただいている理由は、納骨者の感情を考えたからです。納骨者の一番の心配は、自身や先祖の遺骨の行き着くところと供養です。独り身の方や最終継承者が亡くなり絶家となれば、その瞬間に自身も先祖も無縁仏になってしまいます。悲しく虚しいことです。しかし、常楽塔の場合は、立場に関係なく没後から納骨供養が始まります。例え、絶家になってもです。また、生前に予約されれば、自身やご先祖の安眠の場所も確認できます。期限を定めることで「安心感」を与られます。この安心感が常楽塔が一般の方々から支持される理由だと思っております。可能であれば常楽塔をお申し込みになられた時に生前法名や戒名を授けられると、なお、よいのではないのでしょうか。

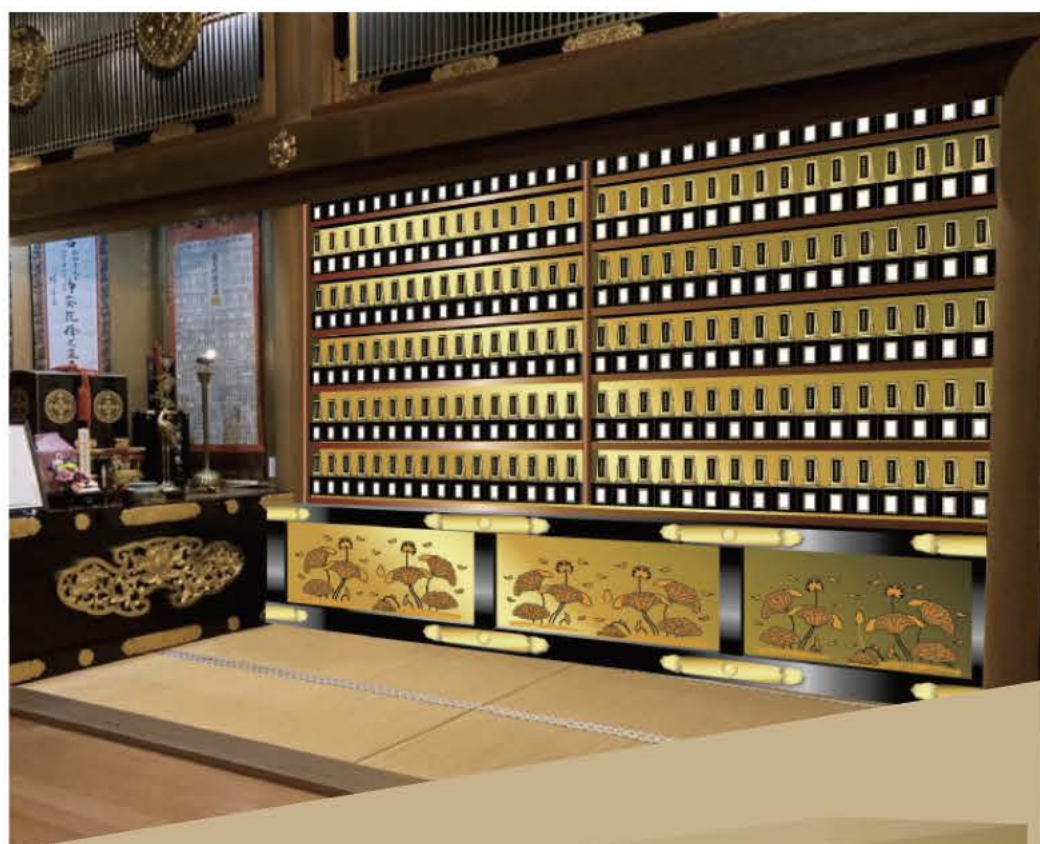


# どこにどのような常楽塔空間が設置されるのか。

## 設置状態 事前確認

### ③ 常楽塔を安置する空間のデザインの検討

常楽塔だけでなく周辺の荘厳も考える必要があります。常楽塔が、どれだけ素晴らしい空間に安置され「永眠するに相応しい場所」と思っていただけることが必要です。こちらは、設置をお考え頂いているお場所を拝見させていただき、弊社で設計ご提案をさせて頂きイラスト化させて頂きます。そして、お見積もりをさせていただき、総工事費を決定して頂きます。この総工事費の決定は、常楽塔の1基あたりの冥加金決定に必要となります。



# 常楽塔の冥加金を算定するために、どう考えれば？

## ④冥加金（納骨供養料）決定

常楽塔の冥加金の構成は、

- ① 総工事費用
  - ② 当初の告知経費  
(常楽塔告知のパンフレットやホームページ作成費用など)
  - ③ 合祀墓造営費(納骨期間満了後に必要となる合祀経費です。)
- となります。下記に実例を記させていただきます。

### 【実 例】 50年間の永代供養

**常楽塔を安置する場所寸法 横幅 360cm 高さ 300cm 奥行 30cm  
まさに畳 2 枚です。**

|             |           |            |
|-------------|-----------|------------|
| ① 常楽塔設置総工事費 | 224 基安置可能 | ¥9,050,000 |
| ② 当初の告知経費   |           | ¥700,000   |
| ③ 合祀墓造営費    |           | ¥1,000,000 |

で合計 10,750,000 円と定め考えていきました。

この総工事費を単純に総設置基数で割りますと

10,750,000 円 ÷ 224 基 = ¥47,991 となります。これに寺院様の冥加金を足して頂きます。仮に冥加金が 30 万円としますと 47,991 円 + 30 万円 = 約 35 万円となります。これが、冥加金を決定する目安となります。ここでご注意頂きたいことが合祀墓の扱いです。この合祀墓は当初よりご用意いただく必要はありません。極論ですが、設置後の 50 年先にご用意して頂ければよく、立派な物は必要はないかと思えます。1 基ご契約いただく度に 100 万円 ÷ 224 基 = 約 4,500 円の積み立てをしていただく感覚でいいのです。この事例で、224 基全てがご契約になった時は

**\* 総常楽塔冥加金 350,000 円 × 224 基 - 総工事費 10,750,000 円 =  
67,650,000 円の差額が生まれるのです。**

この事例では、当初より 10,750,000 円をご用意されておられません。

また、常楽塔も 50 基から始められましたので、当初の常楽塔設置費用は 460 万円でした。これには、告知経費の 70 万円が含まれております。実際には、この告知経費も一度に 70 万円を投資された訳ではありません。必要な物から順に準備されました。

# 広報活動での情報提供が、早期の契約を結びます。

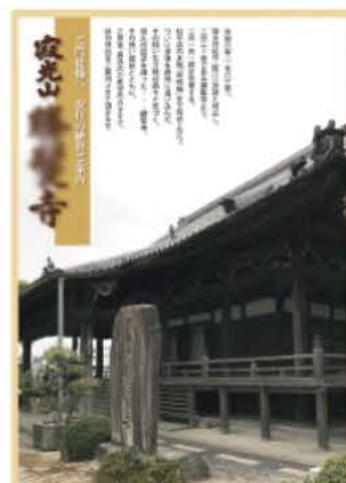
## 情報源が 契約動機

### ⑤当初の活動

仮に前頁の予算 460 万円で納骨堂運営を開始したといたします。この金額は、ご寺院様のある意味投資となりますので早期の回収を考える必要があります。この実例ですと  $460 \text{ 万円} \div 35 \text{ 万円} = 13$  基のお申し込みを頂ければ回収できることとなります。ただ、次の常楽塔の購入がありますので、その費用捻出も考えますと 20 基程度のお申し込みは必要となります。この実例のご寺院様では、常楽塔を製作している期間にパンフレットを製作され、全ての檀家様に郵送されました。結果は設置前に 28 基のお申し込みがあり、早期の資金回収ができました。

いくら良い施設を作られましても、広報いわゆる告知を行わなくては情報は伝わりません。弊社では、販促に特化したスタッフがおりますので、チラシやパンフレット制作などのお手伝いもさせて頂いております。

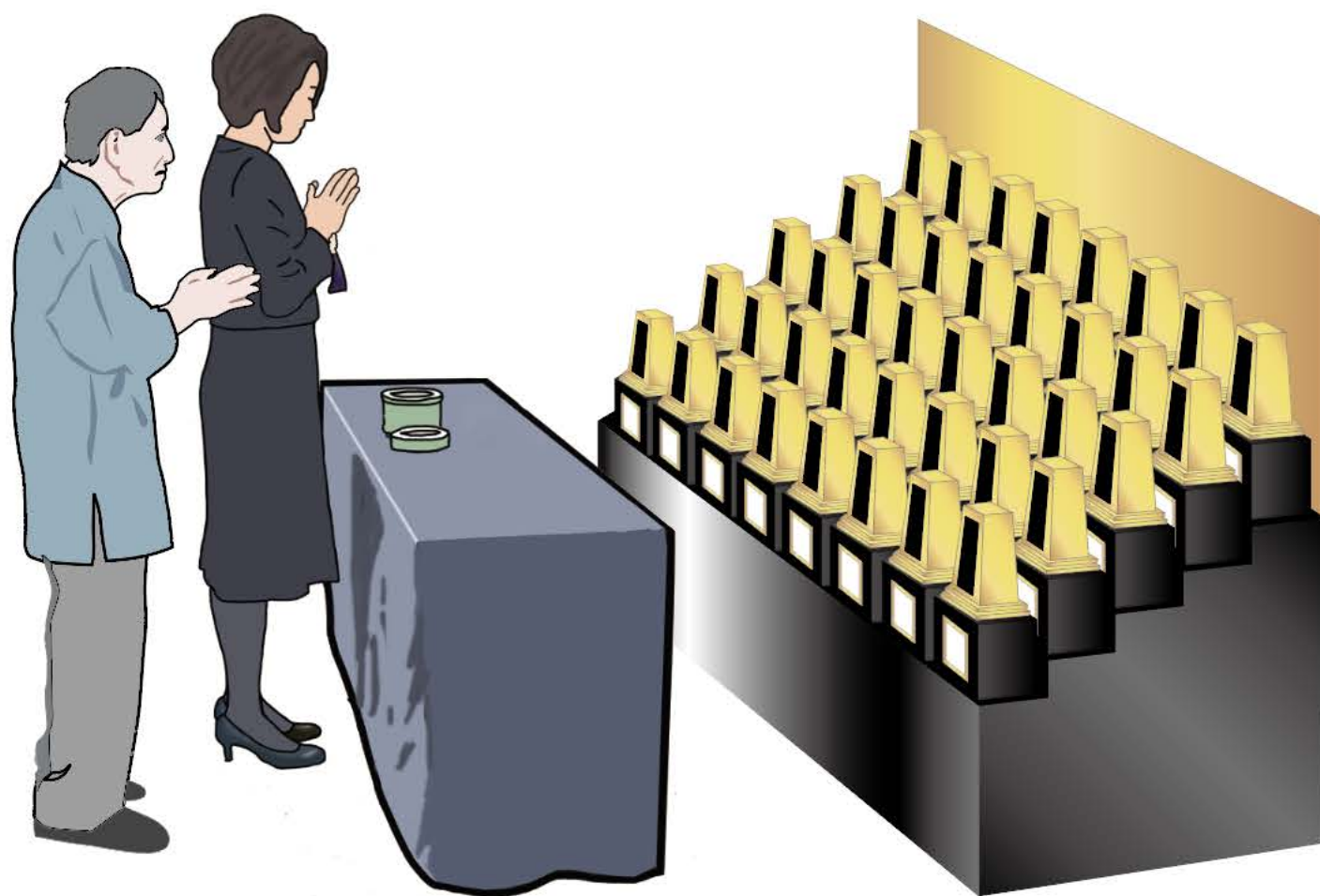
また、運営をされます寺院様の中には、お檀家様以外（宗旨宗派関係なく）へのお申し込みを考えられています寺院様もおられます。その寺院様は、新聞折り込みチラシなどの戦略を試みられている場合もあります。そのような時にご協力はさせていただきますので、お申し付けください。



# 合葬墓は嫌、お寺と檀家の縁を切るようなもの。

## 合葬墓は 縁を切る

これは、とあるご寺院様のご意見です。決して合祀や合同墓を否定するものではありません。このご住職様がお話されるのは「お檀家がお墓や納骨壇の供養を継承できなくなった時、合葬することは、お寺からお檀家と縁を切ることになる。何故ならば合葬されれば、もう二度と寺院に参拝に訪れることは無くなるから。」と。合葬墓の前では故人を偲び、手を合わせることはほとんど無くなる、ということなのです。そこでご住職様は「常楽塔」をご選択されました。常楽塔は個々で納骨されますので、供養する故人が単独でご安置されています。常楽塔を導入されて初めてのお彼岸を迎えた時、ご親族様はお墓参りのように参拝され、手を合わせ、お寺に読経を依頼される方まで現れました。まさに、お寺とお檀家の関係は切れることなく続いていくのです。常楽塔は納骨壇でありながら、院内で並ぶ姿は墓地のような存在になっているということです。さらにご住職様は言葉を続けました。「常楽塔を院内に安置した時から“永代供養”という言葉に魅かれてお申し込みされる方が多いのです。やはりご遺族が供養の継続に不安を感じていることが理解できます。」と・・・。



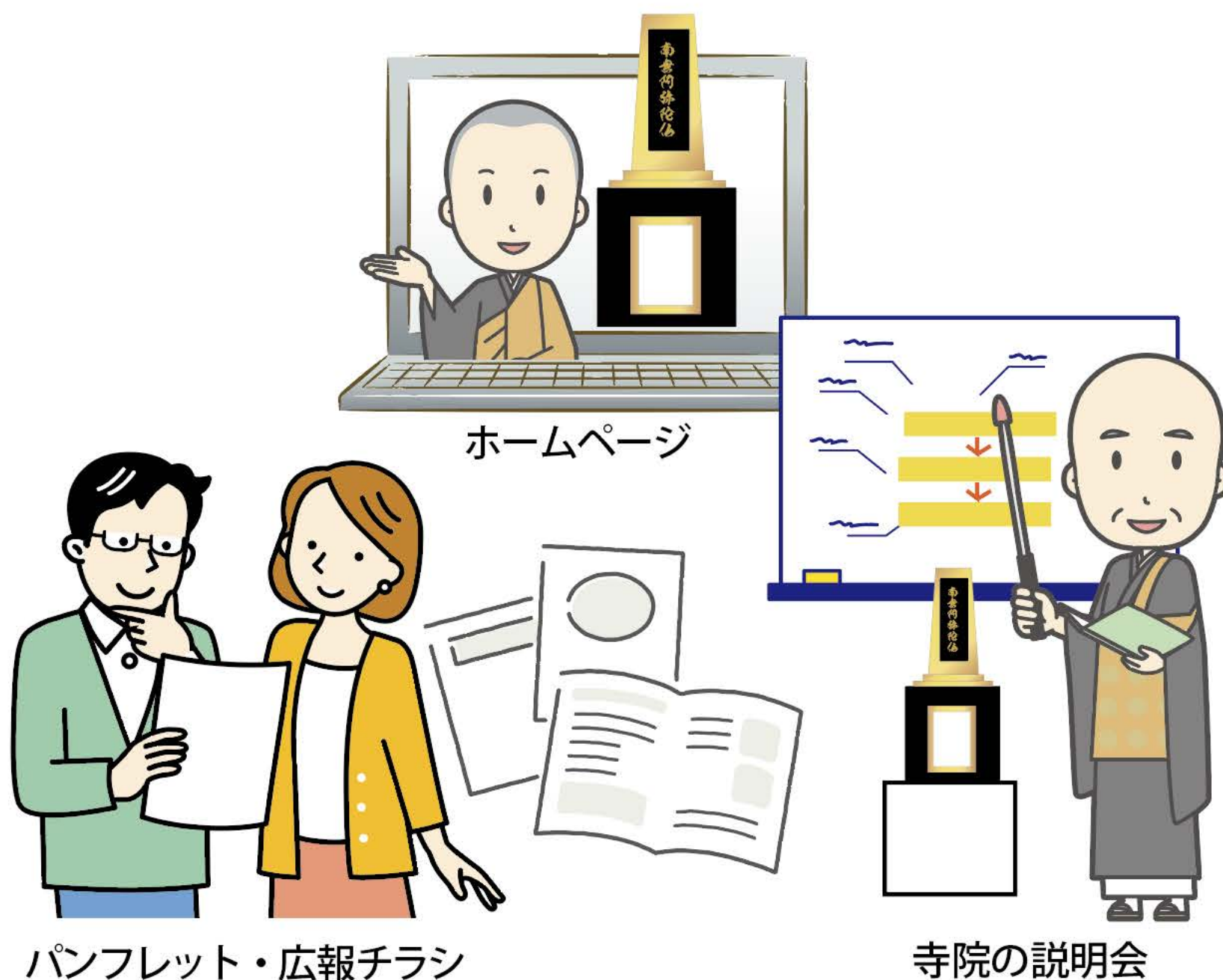
# 常楽塔を認知して頂き、より活用されるための施策。

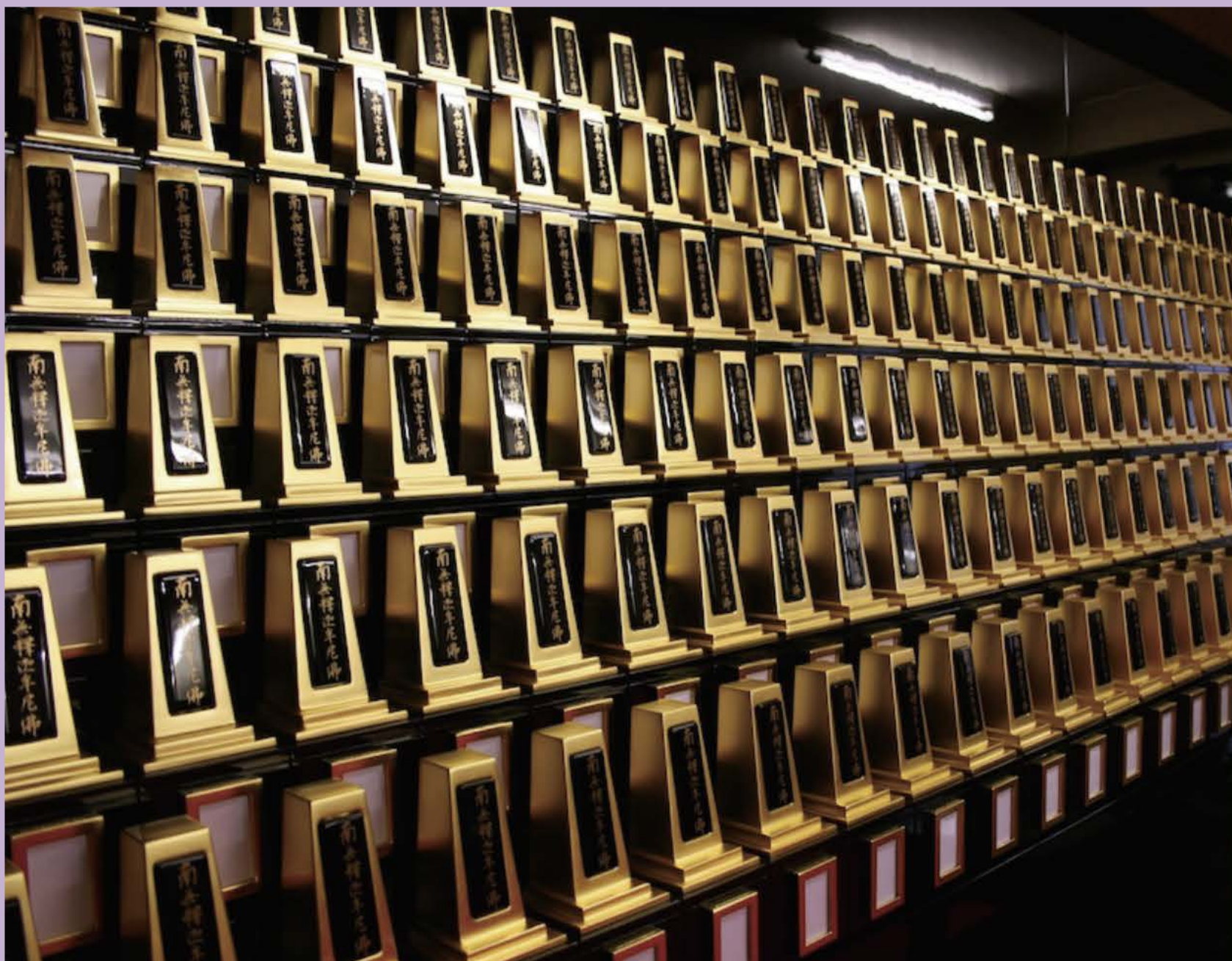
## 常楽塔の 広報支援

常楽塔による永代納骨供養を開始されたら、その存在をお檀家様を中心に、認知して頂くことが必要です。

常楽塔は、これまでにない「ご寺院様による永代供養ができる納骨供養壇」です。困っている方、不安を感じている方に訴求すれば、十分なインパクトがあります。それを広報して頂くことで、より多くの人にご利用されるようになります。このことは、これまで常楽塔を導入されているご寺院様によって、実証されています。広報には制作料や媒体料、印刷料などが必要となりますが、常楽塔の1～2基程の冥加金で相殺され、広報の優れた効果を実感できます。ホームページ制作、印刷物制作に関して、当方には専任の広報担当があります。お気軽にご相談ください。

**常楽塔をお納めするだけでなく、万全の体制でご支援させていただきます。**





多くの常楽塔の安置で、この荘厳感を創出、迫力のある納骨壇となります。

常楽塔に関しますお問い合わせ、資料のご請求は

フリーダイヤル **0120-121-279** メール **info@yuishinan.co.jp**

直接担当者がご対応します。お気軽にお電話ください。 **090-1905-6961**

ご寺院様とともに20年



寺院用お仏具 納骨壇  
**寺院専門アシスト・ワークス 京都唯心庵**  
 本社：京都市下京区中堂寺藪ノ内町 19 番地

ご寺院アシスト HOT LINE ☎ **0120-121-279**

<http://yuishinan.co.jp>

本書の収録内容の無断転載・複写・引用等は禁止されております。